

第3学年 英語科学習指導案

学 級 3年A組 (男10名、女2名、計12名)

指導者 伊藤 千寿

1. 単元名

PROGRAM 7 What Is the Most Important Thing to You? (SUNSHINE ENGLISH COURSE 3)

2. 単元について

(1) 教材観

中学校学習指導要領では、英語での「話すこと」の3学年間を通じて目指すべき目標を、「初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。」としている。また、中学校学習指導要領解説によると、「初歩的な英語」とは、『2(3)言語材料』に示された語や文法事項などの範囲の英語を指している。その中から本単元では「関係代名詞のうち、主格の **that, which, who**」を扱い、この表現を用いながら、「言語活動の取り扱い」で示された「(エ) つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること」を目指す。

これまでに生徒は、分詞による後置修飾を学習し、名詞の後に分詞節を置くことによって、その名詞を詳しく説明することができることを学んできた。これらを受け、本単元では「①人についてくわしく説明する言い方ができるようにしよう。」「②ものについてくわしく説明する言い方ができるようにしよう。」「③人やものについてくわしく説明する別の言い方ができるようにしよう。」という構成で関係代名詞の主格を扱う。関係代名詞による修飾も、後置修飾の一つである。関係代名詞の用法を学ぶことにより、名詞を説明する新たな方法を身に付け、表現の幅を広げることができる教材である。

(2) 生徒観

昨年度は英語を読むことを苦手としていた一部の生徒も、様々な言語活動を通して、徐々に学習に対する意欲を持ちつつある。しかし、依然として英語に対する苦手意識が残っており、英文を一文暗記するような活動でも苦勞する場面が見られる。本単元で身に付けさせたい「話す力」に関しては、語句や文法用語を覚えることはできても、それをどの場面で使えば良いかを適切に判断することは難しく、インタビュー活動を一問一答からつながりのあるものにしていくことが課題である。積極的に“Excuse me.”“Thank you.”“You're welcome.”など会話をつなぐ表現を使用している姿は他の生徒のモデルでもあるので、さらに、対話をつなぐ表現を確認させたり、インプットしたりしながら話すことに自信を持たせたいと考える。

昨年度の岩手県学習定着度状況調査の結果は、上位と下位の学力差が極端に大きい。このことが、話すことの学習活動においても、語彙力、運用力の差として表れる傾向があるが、多様な学力の生徒を交流させることにより、お互いに学び合うことができるようにしたい。

(3) 指導観

関係代名詞(主格)の構造を理解するためには、先行詞と関係代名詞節との関係をきちんととらえられるようにすることが必要である。そのために、導入段階において、英文の中から関係代名詞と、その直前にある先行詞を識別させ、関係代名詞からどの部分までが修飾語句であるかを確認しながら、英文の意味を考えさせる。本時は、既に関係代名詞の **who** と **which** について学習していることから、**that** が人と物事の両方に使うことのできる関係代名詞であることを確認し、**who** や **which** と同じ考え方で「先行詞+関係代名詞節」の部分の意味を捉えさせる。また、5往復以上の対話を行うことができるようにするために、対話を続けるために使うことのできる表現を示し、帯活動によって定着させる。

展開段階においては、示された内容について英語でどのように言えば良いかを自力で考えさせ、全員が言えることを確認する。その上でグループごとにインタビューに使う質問の内容を決めて、英語でどのように言えば良いかをお互いに確認させる。インタビュー活動はグループのメンバーを入れ替えながら行い、お互いに学び合いながら多様なコミュニケーションを展開できるようにさせたい。

まとめの段階では、課題についての振り返りをさせることによって関係代名詞 **that** の用法を確認させ、英語を使って対話をつなぐことができたことの達成感を持たせたい。さらに、チャレンジ問題によって使用場面をとらえた英作文に挑戦させたい。

自力で考えたことをお互いに確認したり、コミュニケーション活動をしたりしながら学び合い、個の力を高めたい。そのことを通して、生徒の自ら学び、考えようとする意欲を高めていきたい。

3. 単元の目標

・関係代名詞(主格)をおさえながらインタビューし、適切に応答しながら対話をつなぐ。(外国語表現の能力)

※ [CAN-DO リストとの関連 話すこと② 既習の表現を用いて相手の質問に応答したり、相手の発話に対して反応したりすることができる。]

・つなぎ言葉を用いながら対話をできるだけつなごうとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

・関係代名詞(主格)を用いた文の構造を理解する。(言語や文化についての知識・理解)

4. 指導計画 (6時間)

1 人についてくわしく説明する言い方ができるようにしよう。(関係代名詞 **who**) ... 2

2 ものについてくわしく説明する言い方ができるようにしよう。(関係代名詞 **which**) ... 2

3 人やものについてくわしく説明する別の言い方ができるようにしよう。(関係代名詞 **that**) ... 2(本時 1/2)

5. 本時の指導

(1) 目標

- ・関係代名詞 that(主格)が人やものについてくわしく説明することを理解する。
- ・インタビューを発展させて5往復以上の対話をする。

(2) 評価規準

観点/評価	B(概ね理解)	C(支援を要する生徒への手立て)
言語や文化についての知識・理解	関係代名詞 that(主格)を用いた英文を何も見ないで言うことができる。	主節と関係代名詞節とを区切って考えさせる。
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	対話をつなぎ言葉を用いて5往復以上つなごうとしている。	対話をつなぐための方法を示す。

(3) 展開

段階	学習内容と活動	支援(○)と評価(◆)	資料や準備物
導入 10分	<p>1 対話に使う表現の確認 (1)対話をつなぐために使うことのできる表現を練習する。</p> <p>2 問題把握 (1)関係代名詞 who/which について復習する。 (2) that の使い方について知る。 (3) that を使った英文について関係代名詞、先行詞、修飾語句を特定する。</p> <p>3 課題設定</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">関係代名詞 that を使ったインタビューから5往復以上の対話をしよう。</div>	<p>○表現リストを使ってペアで確認させる。</p> <p>○紙板書を使って全体で確認した後、プリントに取り組ませ、全員が正しく書きこんでいることを確認する。 ○関係代名詞の直前にあるのが先行詞であることを確認し、関係代名詞からどこまでが修飾語句かを考えさせる。</p>	<p>表現リスト フラッシュカード</p> <p>紙板書</p>
展開 30分	<p>4 解決の見通し (1)5往復以上の対話のイメージを持つ。 (2) Basic Dialog の英文を見て、関係代名詞 that の使われている文の構造と使われている文脈を確認する。 (3)Listening に取り組む。 (4)Speaking に取り組む。</p> <p>(5)示された日本語について、英語でどのように言えば良いか考える。</p> <p>5 自力解決 (1)質問の内容を考え、英語でどのように言えば良いかを確認する。</p> <p>6 集団思考 (1)席を入れ替え、that を使った質問からの対話を1分間続ける。</p> <p>(2)対話の続いたペアの発表を聞いて、どのような方法で対話を持続させたのかを考える。</p>	<p>○対話例を示す。 ○全員に関係代名詞と先行詞をマークさせる。</p> <p>○全員に例文の関係代名詞、先行詞、修飾部分をマークさせる。 ○1人ずつ全員に絵と語句を見ながら言わせる。 ○主節部分と関係代名詞節部分とに分けて考えさせる。</p> <p>○質問内容を決めかねている生徒にはいくつかの例を示し、その中から選ばせる。</p> <p>○表現リストを参考にさせる。 ○会話の展開例を黒板に貼る。 ◆何も見ないで関係代名詞 that を用いた文を話しているか。 ◆対話が続けているか。</p>	<p>バーコード リピーター</p> <p>ワークシート 表現リスト 対話の展開例</p>
終末 10分	<p>7 ふり返り</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・関係代名詞 that を使って質問することができた。 ・既習の表現を使ってつながりのある対話を5往復以上続けることができた。 </div> <p>8 次時予告 (1)次時に Basic Dialog の暗唱と本文の読み取りをすることを確認する。</p>	<p>○次時への意欲付けを図り、家庭学習と連動させる。</p>	<p>ワークシート</p>